



児童生徒地図作品展

作品づくりを通して、地図に興味や関心を持ち、生活の中で使いこなす力を高めることを願って始まった児童生徒地図作品展は、今年度で12回目を迎えました。

今回は、県内の小・中・高等学校から321点の応募がありました。力作揃いの作品の中から15点の入賞作品、45点の入選作品が決定しました。

子どもたちの地図作品の魅力

(1) 子ども自らが見つけ出したテーマ

学校や家庭、地域社会などの中で、子どもたちが会った問題や発見したことなどが、作品のテーマとなっています。子どもたち一人一人の「もっと詳しく調べたい!」「発見したことを地図に表現したい!」「みんなに知らせたい!」という素直な気持ちが、作品に表されています。



「グリーンマップ ～岐阜市の保存樹をたずねて～」
岐阜市立三輪南小学校 5年 小西 はなの

(2) あたたかさやぬくもりを感じる地図

子どもたちが、自分の力を精一杯出して創り出した地図には、あたたかさを感じます。

地図づくりへの取り組み方は、子どもたち一人一人、様々です。資料の収集の仕方や地図表現の工夫、地図づくりを通して得た気づきなどを子どもたちなりにまとめた地図は、見る人の心をひきつけます。

中には、家族と一緒に調査したり、絵や文に表現したりと、多くの大人も巻き込んでつくられた地図もあります。

作品展に応募された地図からは、分析されたデータの情報を得るといったことに加え、作製者やその作製にかかわった人々のぬくもりを感じることもできます。



「大図解 おいちゃんのきりこ山」
下呂市立下原小学校 4年 中村 美月

「心のかげはし 橋しらべ」
岐阜市立本荘小学校 5年 近藤 寛人



「ぼくの家にとどいた」
岐阜市立鷺山小学校 3年 竹中 茂也

